

2023年度(令和5年度)学校評価自己評価表

鳳 中学校区	校番 36	福山市立伊勢丘小学校
最終更新日		2023年(令和5年)10月31日

I 福山市

<p>ミッション 福山に愛着と誇りを持ち、変化の激しい社会をたくましく生きる子どもを育てる。</p> <p>ビジョン 「福山100NEN教育」の基本理念のもと、各中学校区・学校が「21世紀型“スキル&amp;倫理観”」の育成に向けた特色ある教育課程を編成し、日々の授業を中心として評価・改善を進めながら、子どもたちの確かな学びを実現している。</p>
---

II 中学校区

<p>前年度学校関係者評価の主な内容</p> <p>各学校が特色ある教育活動を推進しており、活動のねらいや内容も明確となっている。今後も学校と地域がより連携し地域の教育力を活かしながら児童生徒の主体的な探究学習を推進してほしい。具体的には地域人材を活用したり、児童生徒が地域貢献をしたりする教育活動を継続してもらいたい。</p>	<p>児童生徒の現状</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>児童生徒は地域への愛着があり、地域の方々との交流や地域貢献活動に意欲的に取り組むことができる。</li> <li>必要な情報を読み取り問いや相手に応じて適切に表現することに課題がある。</li> </ul>	<p>育成する力 ② 21世紀型「スキル&amp;倫理観」</p> <p>めざす子ども像 (義務教育修了時の姿)</p> <p>中学校区として統一した取組等</p>	<p>思考力・表現力 他者と関わる力</p> <p>自己を認識し、自分の人生を選択し、表現することができる。</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>論理的に考え、他者の考えを尊敬しつつ、自らの意見を主張することができる。</li> <li>他者や集団のために、自ら考え主体的に行動できる。</li> </ul> <p>① 児童生徒が必要な情報を読み取り適切に表現する「学びづくり」の推進 ② 自尊感情の高揚へつなぐ「クリーンプロジェクト」の推進 ③ しなやかな心とからだの育成をめざした「生活・体力向上アンケート」実施・分析</p>
--	---	--	--

III 目校

<p>ミッション</p> <p>未来を拓くリーダー性を育てる ～ 教育を通して笑顔と感動を！ ～</p>
--

<p>学校教育目標</p> <p>自ら学び 人間性豊かな子を 育てる</p>
--

<p>現 状</p> <p>&lt;児童生徒&gt;</p> <p>○学力調査等から、児童は学習への意欲が高まり、基礎的・基本的な学力は定着している。一方で資料を適切に読みとること、知識を多様な場面で活用することに課題が見られる。教科等の見方・考え方を身に付け、学ぶ過程をさらに充実させる必要がある。</p> <p>○行事やSDGsに係る学習活動において、地域の協力や支援を受けながら連携した活動ができた。自分たちができることを主体的に進めようとする態度が見られた。</p> <p>○「伊勢リンピック」の実施や帰朝のストレッチタイムの継続的な実施により、自己の体力や運動への関心が高まり、柔軟性が高まっている。一方で日常的に運動をする児童が増えていない。</p> <p>&lt;授業&gt;</p> <p>○スタートカリキュラムの考え方を軸にカリキュラムを見直し、児童の経験や既知の知識を把握した上で学びをデザインすることができた。</p> <p>○つまずきを把握し、補充的な学習に取り組んできた。児童が学んだことを多様な場面で何度も活用すること、試行錯誤し粘り強く取り組むことを大切に、学ぶ過程を充実させる必要がある。</p>
--

<p>育成する力 ② 21世紀型「スキル&amp;倫理観」</p> <p>めざす子ども像</p>	<p>①</p> <p>②</p> <p>③</p> <p>④</p>	<p>.....リーダー性.....</p> <p>①生きて働く知識・技能 ②思考力・表現力 ③他者と関わる力 ④全力でやりぬく力</p> <p>知識をつなげて理解し、活用する子</p> <p>「なぜ？」を大切に、じっくり考え、決め、表現する子</p> <p>みとめ合い、協力して取り組む子</p> <p>あきらめず挑戦し、最後までやりぬく子</p>
--	-------------------------------------	---

<p>研究</p> <p>テーマ</p> <p>内容等</p>	<p>「分かる・できる・つかえる」を実感する学びの創造 ～ 見方・考え方をはたらかせ活用を意識した単元デザインを通して ～</p> <p>○ 単元の目標に向かう見方・考え方をはたらかせ、活用場面を充実させた単元デザイン ○ 教科等の見方・考え方を明確にし、問題解決を促す発言や場の設定の工夫 ○ つまずきを乗り越えるための支援の在り方</p>
<p>めざす授業の姿</p>	<p>児童が、教科等の見方・考え方をはたらかせ、「分かる・できる」を実感するとともに、「つかえる」につながる授業</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>児童が知的好奇心を発揮し、既知の知識や経験をもとに、問題を追求する。</li> <li>児童が、自らの考えを適切に表現したり、対話したりして、見方・考え方を身に付け、多様な場面で知識・技能を活用する。</li> <li>児童自身が学習を振り返り、自己の成長や課題に気付いて、粘り強く取り組む。</li> </ul>

IV 目標・取組及び評価指標等の設定と評価

年 目	中期経営目 標	重 点	分 類	短期経営 目標	目標達成に 向けた取組	評価指標	中間評価(10月1日)			最終評価(2月末)							
							目標に係る 取組状況	力の 評価	達成 評価	改善方策	目標に係る取組状況 ◎短期・中期経営目標の 達成状況	力の 評価	達成 評価	総合 評価	改善方策		
1	主体的に学 び続け、協 働的・創造 的に活動す る児童の育 成	★	継続	児童の「わか る・できる・つ かえる」を実感 する学びづく りの実現	◆ 交流研修研究 (教科協会で毎月)	◆ 個に応じた学習 (個々の学習状況や興味・関心に 応じた学習の充実)	◆ つまずきの分析・改善 (学年部で毎月)	○児童の肯定的評価 80%以上	・「わかる・できる・つかえる」と思 う ・学習が自分に合っている ○達成度80%以上 ・評価課題等の正答率	○児童の肯定的評価89.1% ・「わかる・できる・つかえる」 93.6% ・自分に合っている84.7% 教科協会で毎月教科協形式を行い、教材 の解説やねらいについて分析し、授業 改善に生かすことができた。さらに、 児童一人一人に着目し、苦手を克服す る為の手立てを学年間で交流すること で、学力を伸ばすことができた。一方 で、情報を活用し考えたことを表現す ることに課題がある。	4	4	・教材・単元のねらいに重点を置 いた授業改善を進めたり、授業 の中で児童の苦手分野を把握し個 に応じた学びを推進したりしてい く。 ・単元の中で活用する場を確保 し、場や自分に合った考えを説 明できるようにする。 ・学校図書館の利用を促し、授業 での活用を促すことで資料の 活用ができるようにする。				
				関わり合い、認 め合う創造 的な活動による 自己肯定感の 向上	◆ 学級経営計画の作成及び状況 交流 (年間2回)	◆ 一人一人が自らの役割を自覚し、 創造的・協働的に取り組むやりぬ く活動の設定 (年間2回)	◆ 児童が自分のペースで安心して 活動できるプレイルームの 整備	○児童の肯定的評価 90%以上	・自分で考え、挑戦した ・やり過ぎた ・自分や他人の良さに気付いた ・学校で安心してすごすことがで きる	○児童の肯定的評価 92% ・挑戦90.1% ・やり過ぎ93.7% ・人の良さ92.9% ・安心91.6% 様々な行事等で、目的意識をもって 取り組ませたり、次の活動に意欲づ けたりすることができた。また、 個々の学級経営を交流し、解決の見 通しを立てることができた。さらに、 日常的に交流し、速やか問題発見・解 決に取り組む必要がある。	4	4	・学年会を中心に、学級経営計 画の交流・改善を継続的に行 い、日頃から教職員同士で共 有できるようにする。 ・学年・学級での創造的な活動 を設定し、振り返りカードを 活用し課題設定や解決する 力を高める。 ・他学年や他校との関わりを意 図的に計画することで、自分 や他人の良さに気付く視野を 広げる。				
				自らの健康・体 力に関心を持 ち、意欲的に 取り組む態度 の育成	◆ 児童自らが、自分に合った目 標を決め、取組方法を改善して いく活動を設定した授業研修 (年間2回)	◆ 運動遊びタイムの設定	○児童の肯定的評価 ・運動が嫌い・やめ嫌い110%以下 ・自分に合った課題に向き、健康・体 力づくりに取り組んだ 80%以 上 ○体力テストの記録を伸ばした児童 ・ボール投げ・50m走 85%以上	○児童の肯定的評価 ・運動が嫌い・やめ嫌い7.1% ・自分に合った課題に向き、健康・体 力づくりに取り組んだ89.3% 体育授業において、個々の目的に 応じた課題を設定し、児童の運動への 意欲が高まった。一方、日常の運動 量は個人差がある。	4	4	・児童会と連携し、全学年参加 できる遊びを考え、運動に親 しむ。 ・体力測定を再測定を行い体力 の伸びを確認し、次の課題に 取り組む。(11月)						
2	信頼される 学校づくり の推進		継続	子供、保護者・ 地域、教職員の 満足度の向上	◆ 「挑戦、協働」をキーワードに、 教職員一人一人の課題意識を もった取組の実施	○児童・保護者・教職員の肯定的評価 ・児童の学びが楽しい ・保護者の子どもを伊勢丘小学校に 通わせてよかった ・教職員の園生が認められやすい がある (90%以上)	○児童の肯定的評価「学校の楽しい」 肯定的評価91.8%。保護者からは「学校 へ行くのが楽しい」アンケートを取る予 定。来賓の発表会アンケートでは取組 の肯定的評価100%。教職員の「や りがいを感じる」肯定的評価95%。教職 員は取組への達成感をもつことが できている。さらに情報を発信し、連 携を強める必要がある。	4	4	・「授業改善取組シート」や授業 研の協議、職員研修等で確認した ことに全職員が確実に取り組 む。学年会や各委員会で進捗状 況を確認し、課題を共有してい く。 ・HPの更新を継続的に行う。							

[プロセス評価の評価基準]		[達成評価の評価基準]		[総合評価の評価基準]	
評点	評価基準	評点	評価基準	評点	評価基準
5	取組の目的に対する共通理解が顕著に認められ、状況の変化、問題が生じた際は、協同的な課題解決が十分に図られた。	5	目標を大幅に達成し、十分な成果をあげた。	5	100%以上の達成度 十分に目標を達成できた。
4	取組の目的に対する共通理解が認められ、状況の変化、問題が生じた際は、協同的な課題解決が概ね図られた。	4	目標を概ね達成し、望ましい成果をあげた。	4	80%以上100%未満の達成度 概ね目標を達成できた。
3	取組の目的に対する共通理解が一定程度認められ、状況の変化、問題が生じた際は、協同的な課題解決がある程度図られた。	3	目標をある程度達成し、一定の成果をあげた。	3	60%以上80%未満の達成度 ある程度目標を達成できた。
2	取組の目的に対する共通理解が認められ難く、状況の変化、問題が生じた際の協同的な課題解決があまり図られなかった。	2	目標を下回り、成果よりも課題が多かった。	2	40%以上60%未満の達成度 あまり目標を達成できなかった。
1	取組の目的に対する共通理解が認められず、状況の変化、問題が生じた際の協同的な課題解決が図られなかった。	1	目標を大きく下回り、成果が認められなかった。	1	40%未満の達成度 目標を達成できなかった。